

グループ討議

ブロック別園内公開保育についての取組の共有・情報交換

カンファレンスの進め方について

☆ 取り組んだこと ☆

- ・付箋を貼りながら視覚化する。
- ・写真を見ながら場面を共有していく。
- ・事前にどこを見てほしいかを伝える。
- ・公開保育をする担任の先生からの悩みを聞き、そこを中心に話し合う。
- ・ブロックで共通の「視点のポイント」を作成する。
- ・参観のポイントを研究主題から取り入れる。
- ・次に繋がる援助や環境構成を出し合う。
- ・後から見直しても分かるように A3 サイズでファイルに納める。
- ・子どもの姿と保育者の援助の意図を分析しながらまとめていく。

すでに公開保育を終えている園の先生の話を中心に進めていきました。



☆ 難しいと感じたこと ☆

- ・園内の職員にも参加してほしいが保育をしているので、担任と他園の先生とのカンファレンスになった。
- ・参加人数が多くなると意見を出してもらえなかったり、共有する難しさを感じたりした。
- ・ポストイットのまとめ方
- ・進行しながら意見をまとめていくことが難しい。
- ・カンファレンスの時間配分



ブロック別園内公開保育をしてみて感じたこと

- ・他園から来てもらうことで、前向きに頑張ろうという意識に繋がった。
- ・自分たちの気付かないことを教えてもらい自園の環境や保育を見直すことができた。
- ・保育園、幼稚園、こども園のいろいろな先生、また他学年の先生から意見を聞くことができ、お互い良い刺激になっている。
- ・公開保育をした先生の悩みを解消するきっかけになった。また、保育することへの自信となっている。
- ・少人数でゆったりと話し合いができた。
- ・アドバイザーの先生から違う視点で話を聞くことができてよかった。
- ・他園の副園長先生のカンファレンスを見ることができ、どのように進めているか知ることができた。

開催のための工夫

- ・近隣園なので朝から保育を見て、一度解散して降園後にカンファレンスを行った。
- ・乳児保育を知ってもらう機会にするため、夏休みに実施し幼稚園の先生が参加しやすいようにした。



講演 「ブロック別園内公開保育企画・運営について」

講師 奈良教育大学 教授 横山 真貴子氏

1、「協働型」園内研修を始めるにあたっての知恵と工夫

①安心感を高める工夫

⇒日常の雑談の中からテーマを拾う

話しやすい環境をつくる、茶菓を用意する

リラックスした
雰囲気

②誰かが語り合いを促す役割を担う

⇒保育者総合の相互のコミュニケーションを促す

③子どもの姿を語ることに軸足を置く

⇒結果（結論）を導き出そうとしない・ゆっくりと語り合うこと



・園内研修では事前に視点を伝えておく方法や
今、困っている所をテーマに
研修してみると、答えやヒント
が見つかることも。



園内研修の醍醐味

子どもの姿に対する色々な
見方、多様な意見や解釈が
数多く示されるところ！

2、子どもの姿を語る研修にするには（目的）

①子どもの姿を出発点に、率直に話し合う

②ゴールを定めず、少人数のグループで話し合う

③研修の目的に立ち返る

④結果を出すことにとらわれない（結果が出ない事を恐れない！）

⑤コーディネーターの活動（役割）を見直す

- ・リラックスした雰囲気をつくる
- ・経験年数が短い保育者から発言する
- ・終了時間を意識して、協議した内容をまとめ次の協議に移る
- ・予定していた内容が終わりそうにないときは、終了の決断をする事も大事

3、子どもの姿を語る際に気を付ける事は？

- ・肯定的なまなざしで子どもをとらえる
 - ・講評的なまとめをやめる
- （答えは1つではない。色々な見方で子どもの理解を広げていく場である。）

園内研修は

- ・明日からの保育をまた頑張ろう！と思える場。元気をもらって帰る場である事が大切。
- ・各園独自の園内研修ヒストリーを作りましょう！

4、当日の進行

- ・ゆったりと安心できる雰囲気
- ・「今日はいいと思ったことだけを出し合おう！」
- ・ネガティブな発言が出ない研修内容にする
- ・発言したような表情を見逃さない
- ・若手保育者から発言してもらう
- ・オープン・エンドの研修を心がける
正しい答えを求めようとしない、
何か形にまとめようとしない

5、明日の保育につなげるために

- ・目に見えない些細な成果の蓄積が明日以降の保育につながる
- ・参加する保育者が自分の保育の良さに気づき前向きになる園内研修に